

■ 目的

windows の SysColor を設定する事
レジストリは変更しないのでその都度設定する目的です
設定はファイルの内容を編集してもよいし
クリップボード経由で設定するという事も出来ます

- ・ 色については <https://www.colordic.org/> とか参考に #->\$ に置き換えて設定して下さい
- ・ GUI アプリではありませんがコンソール出力もありません

■ ダウンロードとインストール

- ・ 実行ファイル
- ・ ソースファイル

実行ファイルをどこかに置けば使えます。

■ 使い方

- ・ 実行ファイル名を変更しても動作はします。
- ・ 引数はコンソールからやバッチやスクリプト、ショートカット あるいは Drag&Drop 等で与える事になります

- ・ Win32SysCol.exe -w ファイル名

-wFname または -w Fname とあれば 現在の SysColor を Fname に書きだす
-w のみの時 引数無しで読ませるファイルに書きだす

- ・ Win32SysCol.exe ファイル名

存在するファイル名であれば それを読んで SysColor として設定する

- ・ Win32SysCol.exe 起動時に引数が無い時

CTRL キーを押していないなら 実行ファイルと同じフォルダに
Win32SysColInitial.ini があれば読み SysColor に設定し終了
このファイルが無ければ
クリップボードに設定値があるならそれを SysColor に設定し終了
クリップボードの値が 1 か所でもエラーになるなら
SysColor を読みクリップボードにテキストとして書きだす
その時 Shift キーが押されているなら SysColor 側には色のビット反転を行う
ただし win10 でも OS で設定可能な COLOR_DESKTOP は反転しません
また win10 で使えなくなったシステムカラーも反転しません。
使いたいアプリが反応するかどうか確認用の機能です。
このプログラムはコンソールも開きません。コンソールに出力もしません。
代わりにクリップボードでエディター類を使って設定する事も出来るようにという目的です

- ・ クリップボード操作停止方法

-w で書いたファイルや クリップボードの先頭行に書かれているファイル名
実行ファイル名+Initial.ini
が存在すればクリップボード操作はしません。
ただし CTRL キーを起動時に押していれば ファイルが無いとしてクリップボード操作します

- ・ 色の指定

24bit 値を 10 進数か 16 進数で行う。
一部の色は clBlack clRed のようにラベルが付いてる
先頭文字が ^ の時は 24bit のビット反転 つまり補色になります。
元の色コードに加算すれば白色になる関係の色になるわけです

- ・ SysColorBackUp

設定ファイルやクリップボードに
SysColorBackUp = ファイル名 # というコードがあれば
現在の SysColor を指定ファイルに書きだします。
その行を解釈した時に書きだされるので それ以前にエラーがあれば処理されず
それ以後にエラーがあっても既に書きだされています。
ですから先頭に入れるべきでしょう。
SysColor への書き出しは全部のエラーが無い時に行われますから
新しく設定する以前の値が書かれます。

- ・ 注意 :

- ・ クリップボード読み込み時はエラーは報告しません
- ・ ファイル読み込み時はエラーなら不親切なダイアログが出ます
- ・ このツールは sysColor を設定するだけでありレジストリを書き換えません。ですから次に windows を起動した時には元の色に戻ります。
- ・ 常に設定したいなら windows の起動時にパラメータ付きで呼び出す等の工夫をして下さい
- ・ sysColor を設定してもアプリ側が対応していなければ変わりません。
- ・ win10 以後 このツールで表示される先頭の 10 個以後は反応しません。

つまり、win10 以後はアプリ事に使える範囲で調整しないといけない感じになっています

■ ソースファイルについて

実行ファイルもソースも自由に使って下さい。連絡も不要です。改変して業務等で使うのも自由ですが、[日本語以外に翻訳禁止] は とりあえずお願いします。

- ・ は Delphi5 で確認しています。

実行サイズが小さくなるように WindowsAPI を使っているの文字コードは ANSI ですから Lazarus では文字化けを止めるのに苦労するでしょう。サイズが大きくなるのを我慢して Lazarus コンポーネントを使って GUI アプリに作り直した方が楽かもしれませんね。といっても GUI を付けても何か便利になるという事もないでしょうけど。

- ・ は Delphi で exe 作成後 RisohEditor で RC_ICON を <https://icooon-mono.com/> から拾ってくっつけた後 UPX.exe で圧縮してあります。それぞれツール提供ありがとうございます。

■ 設定ファイル / クリップボードに書かれるデータ例

より右側はコメントです \$ は 16 進数を示しますコメントが #! となっているのは Win10 以後未定義となったりでアプリが反応しないと思われるものです。仮想マシンで昔の OS を使ってるなら意味はあるでしょうから残しています

■ ぼやき

Win10 以後 32bit アプリの配色の変更が厄介になった。年取ってくると目が疲れやすくなる。少しでも白い画面があるとすぐに目がぼやけてしまう。** だから配色を変更したいのに Win10 / Win11 で配色変更しても昔の 32bit アプリは殆ど変化しない。

- ・ なにせ sysColor を変更してくれてないのだから。

- ・ 個人用設定で変更してくれるのは OSCOLOR_DESKTOP だけじゃないのかな？
- ・ いやアプリには関係ない SysColor だから設定してくれてるのか？

だから sysColor を変更するツールを作る事にしたのだが

- ・ sysColor を変更してもタイトルバーとかいろんな場所が XP のころのように反応しない！

代わりに角が丸くなってる。せめてダークテーマにしたらタイトルバーもダークになって欲しいものだ。

- ・ そういうわけで sysColor の設定だけではどうしてもない部分が出てくる
- ・ というかボタンとか背景色と文字色を同時に設定出来ないのだから見えない場所さえ出てくる
- ・ だから逆にテーマ設定で sysColor の設定をしなくなったのじゃないかと邪推する

■ そんなわけで

使うアプリ事に色設定変更しなくちゃいけないって感じだけど、これ以上は出来る事はマイクロソフトに文句言うくらいだね 昔のようにタイトルバーの色設定とかも出来るように戻せとかさ